

ID No.	3076
研究課題名	ヒトヘルペスウイルス6の増殖を規定する宿主機構の研究
研究代表者	有井 潤(神戸大学・大学院医学研究科・附属感染症センター・特命准教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	川口 寧(東京大学医科学研究所・教授) SALMA AKTAR(神戸大学・博士課程) 黄 経霖(神戸大学・博士課程) 前田 史雄(産業技術総合研究所・研究員) 竹島 功高(昭和大学・助教) 加藤 哲久(東京大学医科学研究所・助教) 小柳 直人(東京大学医科学研究所・助教) 丸鶴 雄平(東京大学医科学研究所・助教)
研究報告書	<p>ヒトを宿主とするヘルペスウイルスは、9種存在し、それぞれが多彩な病態を引き起こす。これらのウイルスは、類似した遺伝子群を持ち、細胞内におけるゲノム複製、粒子形成機構はほぼ同一である。このようなヘルペスウイルス群が、<u>生体内においてどのように棲み分け、異なる病態を引き起こすのか、本質的には解明されていない。</u>今年度は、ヘルペスウイルス群の中で、最も解析が進んでいるとされている単純ヘルペスウイルス(HSV)のウイルス粒子形成に注目し、脂質であるPEの合成系の重要性を明らかにした。さらにHSV感染細胞で認められる核膜における粒子形成と同じメカニズムで、遺伝性疾患HGPS細胞の核膜維持がなされていることを明らかにした。また、HSVの細胞間の伝播効率に影響を与える宿主因子としてPHB1およびMEK/ERKシグナルを明らかにし、その機能がアルファ、ベータ、ガンマヘルペスウイルス亜科に共通していることを示した。</p>